

地理学関係の学生を対象とした地理学・日本地理学会に対する意識調査の結果報告

| | |
|-----|---|
| 著者 | 青木 賢人, 安孫子 知広, 岩下 広和, 木村 圭司, 成瀬 厚, 村田 啓介 |
| 雑誌名 | 地理学評論 |
| 巻 | 68 |
| 号 | 7 |
| ページ | 488-489 |
| 発行年 | 1995-07-01 |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/9660 |

地理学関係の学生を対象とした地理学・
日本地理学会に対する意識調査の結果報告

全国地理学大学院生連絡会*

1. はじめに

全国地理学大学院生連絡会（全地院連）は地理学関係の大学院生および研究生の交流を進めるとともに、研究環境の向上を目指すなどの活動を行っている。1994年度にはその一環として、とくに地理学・日本地理学会に対する意識調査を行なった。全地院連会員にはすでにその結果が報告されているが、この場を借りて、日本の地理学研究者に対しても簡単な報告をさせていただきたい。

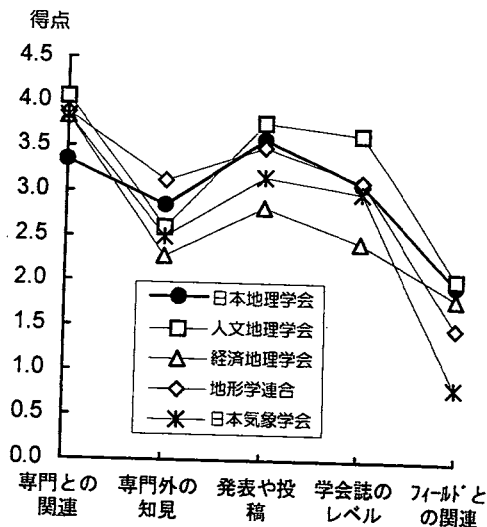
2. 意識調査の内容と分析結果

調査票はB4サイズ1枚のもので、質問内容は以下の7項目である。①専門は何か、②地理学関連大学院への進学理由、③学会への加入状況、④加入学会の評価、⑤日本地理学会への未加入理由、⑥地理学会未加入者の希望する学生会費、⑦修了後の希望進路。この調査票は、1994年6月末に日本全国の大学院の地理学関係67専攻に送付し、回収総数は24専攻からの178であった。その回答者数は全地院連加盟者数の半数以上に当たる。回答のうち、地理学を専門とすると答えた135(76.8%)について分析を行なった。

まず、現在の専攻に関する質問に対し、「地理学を専攻したかった」という積極的な理由が87%を占めた。学会への加入状況に関する質問では、回答者135人中61人が日本地理学会に加入しており、日本地理学会を最優先に選択する者も多かった(36.4%)。

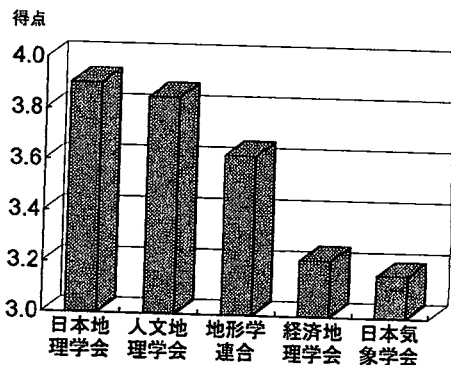
加入諸学会に関して、それぞれの専門性・専門外の知見の獲得・発表の機会・学会誌のレベル・調査地との関係、の5点について順位をつけてもらった。加入者数が多い諸学会を比較した結果、日本地理学会に対する相対的評価として、①専門性の相対的低さ、②専門外の知見の獲得における優位性、③発表

*本報告の文責は、以下の会員にある(50音順)。
青木賢人・安孫子知広・岩下広和・木村圭司・
成瀬厚・村田啓介



第1図 学会に対する評価

得点の算出は、特定の学会一項目に与えられた順位から6を差し引いた値の絶対値を得点として加入者分を足し合わせ、加入者数で除して求めた。



第2図 総合評価

得点は第1図と同じ方法で計算した。

の機会への期待、があげられる(第1図)。

同様に、加入諸学会を総合的に順位づけしてもらったものを集計した結果、日本地理学会の評価が最も高かった(第2図)。「地理学」を専攻している以上、日本地理学会は入るべき学会として受け取られることがうかがえる。

日本地理学会の学生会費について、加入者と非加入者に分けて集計を行なった(第1表)。現状の

第1表 学生の考える地理学会の適正な学生会費

| 金額(円) | 入会者 | | 未入会者 | | 合計 | |
|--------|-------|------|-------|------|-------|------|
| | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 |
| 10,000 | 4 | 8.7 | 6 | 10.7 | 10 | 9.7 |
| 9,000 | 4 | 8.7 | 1 | 1.8 | 5 | 5.2 |
| 8,000 | 12 | 26.1 | 4 | 7.1 | 16 | 16.6 |
| 7,500 | 1 | 2.2 | 4 | 7.1 | 5 | 4.7 |
| 7,000 | 1 | 2.2 | 0 | 0.0 | 1 | 1.1 |
| 6,000 | 11 | 23.9 | 6 | 10.7 | 17 | 17.3 |
| 5,000 | 12 | 26.1 | 22 | 39.3 | 34 | 32.7 |
| 4,000 | 1 | 2.2 | 4 | 7.1 | 5 | 4.7 |
| 3,000 | 0 | 0.0 | 5 | 8.9 | 5 | 4.5 |
| 2,000 | 0 | 0.0 | 1 | 1.8 | 1 | 0.9 |
| 1,000 | 0 | 0.0 | 1 | 1.8 | 1 | 0.9 |
| X | 0 | 0.0 | 2 | 3.6 | 2 | 1.8 |
| 合計 | 46 | 100% | 56 | 100% | 102 | 100% |
| 平均(円) | 6,880 | | 5,554 | | 6,152 | |

Xは会費がいくらでも入会しない人。

10,000円をあげた学生は少ない。最多回答は5,000円で、約30%を占めた。

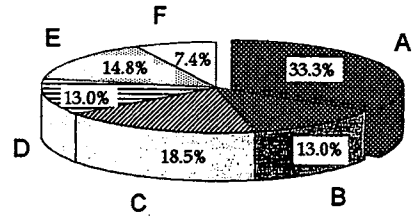
日本地理学会に加入していない理由を訪ねた設問に対しては、第3図のような回答を得た。入る機会がなかったと答えた学生は修士課程1年生に多く、会費が高いことをあげた学生はほぼ他学会に入っていることが確認できた。

一方、日本地理学会に加入している学生の多くは専門と関連した分野への就職を望んでいることがわかる(第4図)。

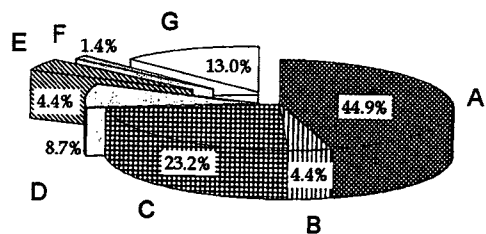
以上の結果から、日本地理学会運営検討委員会があげている、学生の会費割引をしない理由とする4つの推測(地理学評論, 67A, p.428)のうち、3つに関しては学生の意見が集約できた。

まず、「学生が加入しないのはメリットが少ないから」という推測に対し、学生は日本地理学会なりの魅力や独自性(専門との関連性・発表の機会・専門外の知見の獲得)を評価していることがわかる。

第2に、「学生はメインの学会を他の学会に求めており会費の高さは関係ない」という推測に対しては、日本地理学会に不満な点も指摘しながら、総合的には高い評価を与えている。他学会に加入している学生は、会費との関連で日本地理学会への加入を



第3図 地理学会に加入しない理由
A: 会費の高さ B: 機会がない C: 必要がない
D: 関連のなさ E: 他学会に入会 F: その他



第4図 修了後の希望進路
A: 大学教員 B: 中高教員 C: 研究所 D: 民間企業
E: 公務員 F: 家業 G: その他

見合わせていると思われる。

最後に、「会費を下げて、学生が課程修了後学会を退会する」という推測に対しては、修了後も研究を続ける希望をもつ学生が多いことから、十分な就職先が確保されれば、大量の脱会者ができるとは考えにくい。日本地理学会に加入している学生の専門職に対する要求は大きく、就職に対する学会の活動が期待される。

3. おわりに

今回実施した意識調査によって、現在の学生の地理学・日本地理学会に対する認識がわずかながら把握されたと思われる。日本地理学会に対しては、多くの学生が重視しているとともに冷ややかな目でみていることがわかった。すなわち、日本地理学会は独自性をもつ学会であるが、会費が高いため、研究職に就くのに有利であるから加入するのではないかと考えられる。会費の高さゆえに門戸が狭くなるのは、たいへん悲しいことである。